

はじめに

藤川 美代子（南山大学・准教授／人類学研究所・第二種研究員）

このBookletは、2025年4月5日（土）に開催された公開シンポジウム「「食」は世界をつなぎ、分断する——食品のサプライチェーンをめぐる人類学」の講演録である。

このシンポジウムは、神戸大学国際文化研究推進インスティテュート（略称：Promis）の主催、南山大学人類学研究所の共催という形で行われた。シンポジウム開催に至った経緯は、以下のようなものである。Promisは2022年より、人間文化研究機構が進める「グローバル地域研究推進事業」というプロジェクトのうち、「東ユーラシア研究」を担う研究拠点（略称：EES）の1つとなっており、他の三拠点とともに「21世紀の東ユーラシアにおけるウェルビーイング（持続的な安定）」についての共同研究を開始していた。この拠点内には、さらに「住まいとライフスタイル」、「身体、感覚と他者性」、「テクノロジーとモビリティの拡張による距離と境界の再構築」「なりわいとグローバル経済」「人口減社会における越境・家族・国家」という5つのテーマを掲げた小グループがつくられている。そのうち、人類学研究所の宮脇千絵氏が「なりわいとグローバル経済」グループのコーディネータを任されており、その縁で私もこの共同研究に参加させてもらうことになった。

一方、人類学研究所では大学の国際化推進事業の一環として2022～2024年度に「なりわいと移動の人類学——中華圏の研究者との協同から」という共同研究を実施しており、宮脇氏、張玉玲氏（外国語学部／人類学研究所）、私、そして張雅氏（当時・人類学研究所国際化推進事業担当研究員）が主導する形で講演会やシンポジウムを開催していた。

今回のシンポジウム「「食」は世界をつなぎ、分断する」は、双方の共同研究に関わるものとして企画された。食品のサプライチェーンについて研究されている方をお招きして、さまざまな知見をお聞きしたいというところから始まり、発表者・コメンテータについては宮脇氏・張玉玲氏・張雅氏からアイデアと人脈を提供してもらいながらの企画となった。また、実施にあたってはEES神戸の岡田浩樹氏にお力添えをいただいたほか、繁雑な事務的な手続きについては、コメンテータを務めていただいた富田敬大氏（EES神戸）に大変お世話になった。ここに記して感謝申し上げます。

当日のプログラムは、以下のとおりである。

(共催) 公開シンポジウム

「食」は世界をつなぎ、分断する——食品のサプライチェーンをめぐる人類学」

・日 時：2025年4月5日(土) 13:30～17:10

・会 場：南山大学 G 棟 G27 教室・zoom (オンライン)

・プログラム：

13:30-13:45 藤川 美代子 (南山大学)

「趣旨説明」

13:45-14:25 佐久間 香子 (東北学院大学)

「なぜツバメの巣を“養殖”するのか?——生産から消費の間のコンテキストを読み解く」

14:25-15:05 吉田 真理子 (広島大学)

「Values in the Shell: Translation, Practices, and Materiality in the Plumping of Oysters in Japan」(使用言語は日本語)

15:05-15:45 藤川 美代子

「この海藻、海女さんが潜って採ってるの?——日本と台湾の寒天製造を支えるサプライチェーンと知識の接続/断絶」

15:45-16:00 休憩

16:00-16:20 富田 敬大 (神戸大学)

「コメント」

16:20-16:40 内尾 太一 (静岡文化芸術大学)

「コメント」

16:40-17:10 総合討論

このシンポジウムが、食品のサプライチェーンをめぐるマルチサイテッドな人類学の展開にとって何がしかの意義をもつものとなっていれば幸いである。